



昭和の 東京さんぽ



【特別企画】

「この世界の片隅に」
見つかる あの頃の暮らし



(iPhone, iPad
のみ対応)

お散歩アプリで
お得な情報も



旅行読売
臨時増刊
価格980円

少し黒っぽく見える御影石がかつての都電の敷石だ



これまで仕事や私用で何度も銀座を訪れてきたが、「昭和」を探して歩くのは初めてだ。近年、新たな商業施設が続々とオープンし、街の景観は激変している。それだけに、繁華な街の陰でどんな「昭和」に出会えることであろう……。

起点は東京メトロ有楽町線の銀座一丁目駅。6番出口から地上に出て、少し歩くと銀座通りに出る。昭和42年（1967年）に廃線になるまで、



現在の銀座通り。「GINZA SIX」など新しい顔が増えている



銀座木村家で昔から人気の動物パン。何の動物が分かるかな？



銀座

車道の真ん中を都電が走っていた。現在、歩道に敷き詰められた白っぽい石の中で、少し黒っぽく見える石はかつて都電の敷石に使われていたもの。都電の線路を埋めて整備したところもあるそうで、都電が走っていた様子を想像しながら歩くのも楽しいものだ。

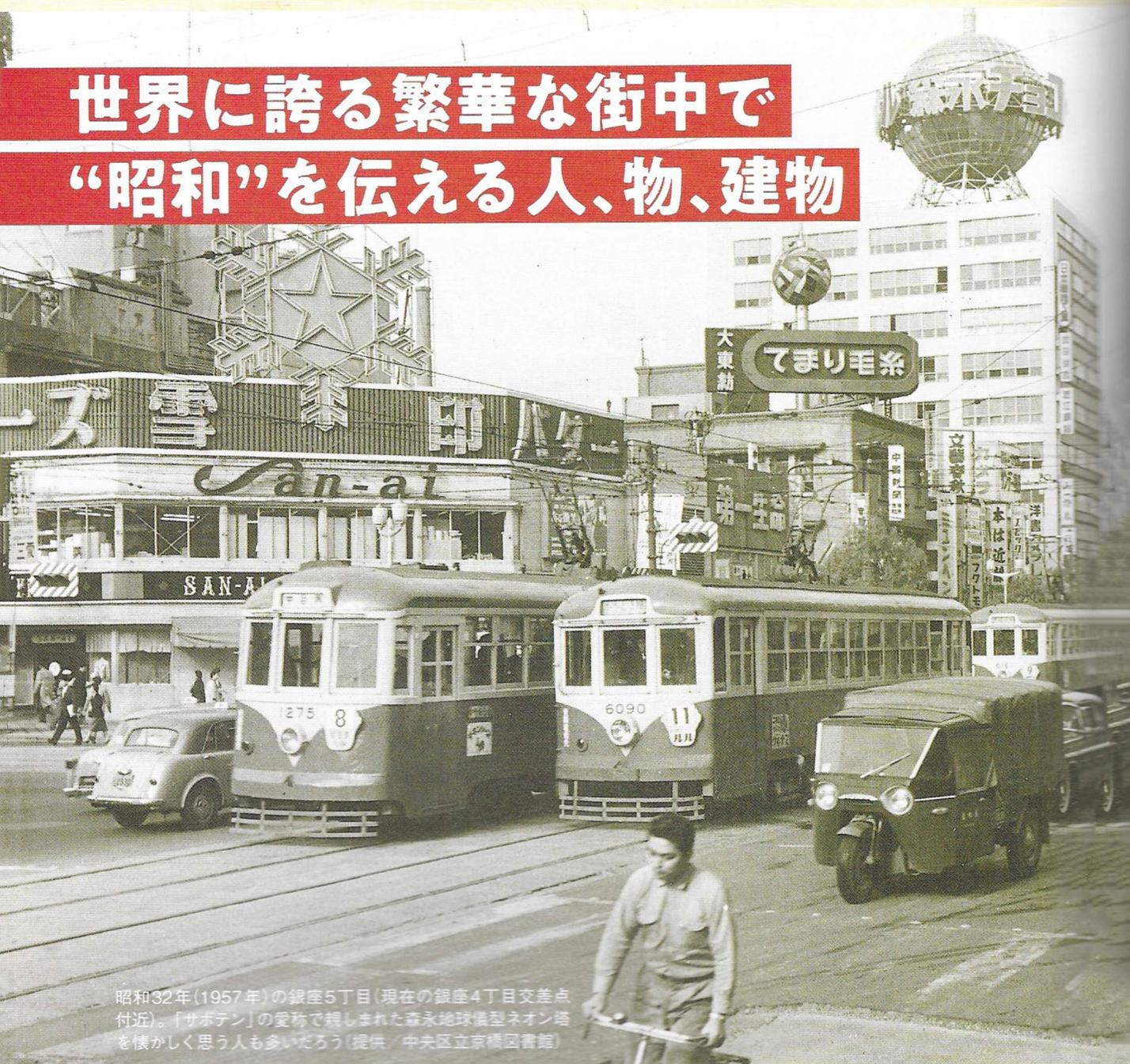
銀座通りといえば、昭和45年（1970年）から始まった歩行者天国でも知られる。今では一般的な歩行者天国も、高度経済成長の当時、車両通行を禁止するとあつてかなりの衝撃だった人も多いだろう。約23万人で銀座通りが埋まったというから、今の渋谷区の全住民が集まったくらいすごかった。

**昭和建築のビルを再利用
ギャラリーとして面影を今に**

銀座で観光といっても、多くの人の楽しみは買い物や食事。そこに、昭和というエッセンスが加わると、裏通りに静かにたたずむ建造物を見る面白さがある。銀座一丁目交差点で銀座通りを渡り、二つ目の角を左へ曲がって出会う奥野ビルもその一つである。

昭和7年（1932年）築の本館

世界に誇る繁華な街中で “昭和”を伝える人、物、建物



昭和32年(1957年)の銀座5丁目(現在の銀座4丁目交差点付近)。「サポテン」の愛称で親しまれた春永地球儀型ネオン塔を懐かしく思う人も多いだろう(提供/中央区立京橋図書館)



昭和レトロな雰囲気感を漂わせる奥野ビルの階段と廊下

と昭和9年（1934年）築の新館をつなぎ合わせた7階建てのビルで、同潤会アパートを手がけた川元良一氏が設計した。当初は高級住宅だったが、戦後は貸し店舗の利用も行われた。平成15年（2003年）頃からはギャラリが増え、現在は全69室のうち約4割を占め、銀ブラ、がてら立ち寄る人も多い。エントランスに入ると、その理由がなんとなく分かる。

タイル張りの壁や床、手でドア

を開閉するエレベーターなど、時間の流れを止めたような空間そのものがアートなのだ。圧巻は廊下や階段の踊り場。人の通る動線の床がえぐられている。竣工から80余年、どれほどの人がここを歩き来したのだろう。漂う空気感に、どこことなく昭和を感じる。

テナントの一つ「306号室プロジェクト」をのぞくと、会員の西松典宏さんが「どうぞ」と迎え入れてくれた。昭和60年代まで美容室として使われた部屋で、壁に残る三つの丸い鏡が当時の面影を伝える。

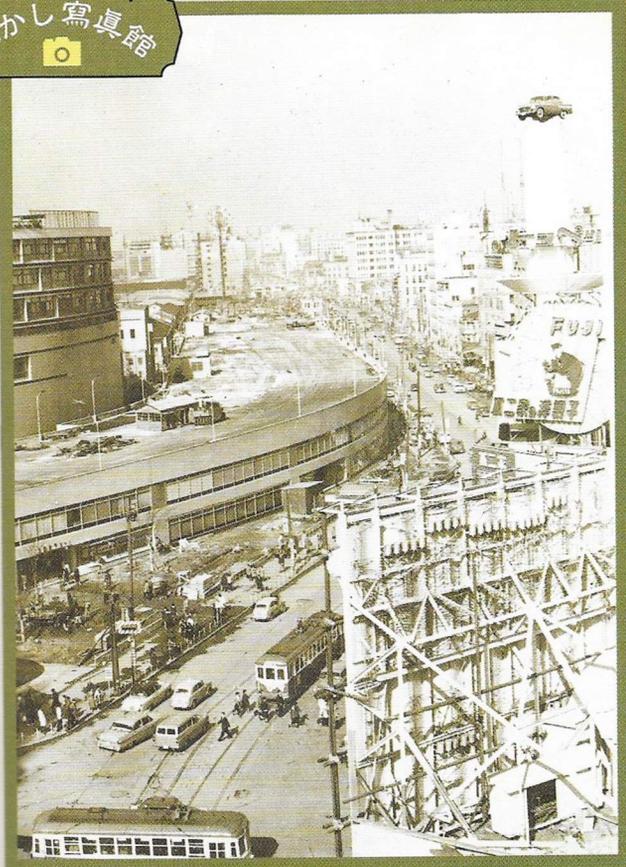
「2009年に世帯主が亡くなられ、遺品整理された直後にこの部屋を紹介されました。懐かしいだけでなく、心に響くものがあり、なんとか保存できないかと思いました」

西松さんのように、この空間に惚れ込んだ有志が306号室プロジェクトを結成。現在30人ほどの会員が、ただ守るだけでなく、絵画や彫刻の展示、カフェなど多目的に使っている。催事の開催日のほか、毎月6日（13時〜19時）に一般公開している。

昭和通りにも、昭和7年築のビルを再生したMUSEE GINZAがあった。代表の川崎力宏さんは平

懐かし写真館

昭和32年（1957年）、銀座・数寄屋橋周辺に建設中の首都高速の様子。不二家が今と変わらぬ場所にあったことが分かる（提供／中央区立京橋図書館）



（上）昭和通りの高層ビル群の中でひと際小さなMUSEE GINZAの建物（下）建築保存への熱い思いを語ってくれた川崎力宏さん



ここだけ銀座ではないような素朴さを漂わす奥野ビル





移動時間：約45分

銀座一丁目駅
(東京メトロ有楽町線)

徒歩すぐ

銀座通り

徒歩3分

奥野ビル

徒歩5分

MUSEE GINZA

徒歩7分

チョウシ屋

徒歩10分

銀座木村家

徒歩5分

**ピヤホールライオン
銀座七丁目店**

徒歩15分

新橋駅(山手線など)



通りに案内板があり、今、自分が何丁目にいるか分かりやすい

成24年(2012年)に敷地ごと購入し、高層ビルへの建て替えを検討した。

「解体する直前、加飾(カシマ)の美しさに目を奪われ、壊すのがつらくなりました。この姿を残しつつ、何かできるか考え抜いた結果がギャラリーでした。今では建物を守らなくてはという、使命感で運営しています」と語る。

ギャラリーは3階と屋上にあり、建築や都市に関する企画展、現代美術の常設展を鑑賞できるほか、個展や企業イベントへ空間を貸与もしているという。

パン、ビール、ソーダ水……

昭和グルメをばしごする

小腹が空いたこともあり、ここか

らは昭和グルメを求めて歩くことにしよう。昭和通りから脇道へ南下すると揚げ物のいい香りが漂ってくる。コロッケパン、ハムカツサンドなどで人気のチョウシ屋だ。洋食のコックだった初代が昭和2年(1927年)に創業した。

「創業時にジャガイモのコロッケを売り出したら大当たり。店の外に行列ができて、警察とケンカしたって祖父は言っていましたよ」と笑うのは三代目・阿部光雄さん。

朝4時にジャガイモを蒸かすことからラード油で揚げるまで、今も調理方法は創業時と何も変わらない。コロッケパンは昭和24年(1949年)に常連客のリクエストで始めた。ホクホクのコロッケはもちろん、ソースのしみた柔らかい食パンがま